

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	果実の木豊成		
○保護者評価実施期間	令和 7年 2月 1日		～ 令和 7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	令和 7年 2月 1日		～ 令和 7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	令和 7年 2月 1日		～ 令和 7年 2月 28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・訪問支援時は、児童発達支援管理責任者と共に有資格者(教員、保育士、等)の訪問支援員が訪問すること多い為、複数の視点から児童の様子を観察し、支援に入ることができる。	・事前に訪問先・児童・授業内容等を訪問する職員間で確認、支援の方針を打ち合わせている。また、保護者の要望(見て欲しい授業、等)を確認後に訪問先と訪問日時等を調整し、支援を行っている。	・訪問支援の希望が増えている為、訪問支援員の増員を検討中。 ・引き続き、保護者の要望を確認後に訪問先と調整し、保護者・訪問先それぞれが満足できる支援を目指していく。
2	・同事業所内で放課後等デイサービスを行っている為、放デイでの児童の様子も訪問先に詳細に伝えることができる。	・学校での支援だけでなく、同事業所(放デイ)での支援についても学校側と話している。その為、学校・放デイで支援の統一ができ、同様に家庭との連携・支援の統一も行っている。	・他の事業所とも連携し、学校・家庭・放デイ等の事業所で支援の統一を図り、児童が安心して生活できるよう支援していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・訪問支援の趣旨・目的について、訪問先の現場担当者に伝わっていないことがあった。	・初回の訪問支援前に訪問先に挨拶で伺い、趣旨について管理職に説明していたが、担当者とは会えなかった為、趣旨・目的について伝わっていなかった。	・初めて訪問支援を行う施設については、担当者にも直接挨拶し、趣旨を説明する。また、異動等で担当者が変わった場合は、改めて担当者に説明する。
2	・訪問支援後のカンファレンスの時間を取ることが難しい場合がある(数日後になってしまうことがある)。	・同事業所内で放デイを行っていることもあり、学校と話し合いの時間を合わせることで難しい場合があるが、授業後の短時間でも担任と話す時間を設けられるようお願いしている(数日後に改めて話し合っている)。	・放デイの職員を多めに配置し、訪問支援のカンファレンスが行えるよう配慮する。また、放デイ・訪問支援それぞれの児童数が増えている為、職員を増やすことを検討していく。